

劇団花さつき

三重県鈴鹿市を拠点に活動する市民劇団「劇団花さつき」。現在は6名の子どもを含む15名で活動しています。鈴鹿の歴史や伝統産業、文化、伝説、昔話などをテーマにした、年1回の定期公演開催を活動の中心にし、高齢者・養護施設などへの慰問を行っています。また、鈴鹿市社会福祉協議会のボランティア団体として各ボランティア活動にも積極的に参加。多くの人と交流することで、鈴鹿市の芸術文化向上に寄与しています。



代表・制作担当
長谷川 祐美子さん

お問い合わせ

「劇団花さつき」
TEL 090-9276-9996

20周年記念公演「鈴鹿のはじまり」私たちが出会った、鹿」が令和8年1月31日、2月1日にハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿で開催されました。鈴鹿市の誕生を、市のマスコットキャラクター「ベルデイ」からヒントを得て、「劇団花さつき」が脚本・演出したオリジナル作品です。その稽古で出演者が揃い、熱心に演劇に励むなか、合間を縫って代表の長谷川さんにお話を伺いました。

——活動を始めようとしたきっかけを教えてください

長谷川：第58回カンヌ国際映画祭で特別上映され、国内外で注目された小栗康平

——お仕事や学業と両立されている方も多いと思いますが、練習や活動はどのようにされているのでしょうか

長谷川：練習は毎週土曜日に白子周辺で集まって行っています。団員は10代の若者から80代まで年代が幅広く、それぞれ仕事や学業があるので、活動はその日に参加できる人でできることが何か、を考えて行きます。強制はせず、可能なときはできるだけ参加。活動一つひとつ、団員の発想力でテーマから内容まで決めていき、できることを形にしていこうようにしています。特に、子どもたちがやりたいことを実



高齢者施設での訪問公演の様子※



イベント活動にて※



20周年記念公演関係者の皆さん



20周年記念公演「鈴鹿のはじまり」※

監督の映画「埋もれ木」の撮影が平成16（2004）年5月から3か月間にわたり鈴鹿市で行われました。翌年の上映をきっかけに、その撮影に関わった一部のメンバーで「今後何か出来ないか？」と、平成17（2005）年に結成したのが始まりです。設立当時の鈴鹿市では演劇に親しむ機会が少なく、芝居を演じる楽しさや創る楽しさ、観る素晴らしさを沢山の方々に知ってほしいと思ったのです。鈴鹿市の市の花「サツキ」を劇団名に付けました。

——年1回の定期公演のほか、具体的にどのような活動をされていますか

長谷川：高齢者施設や養護施設、幼稚園や保育園、各自治体のイベントなどに出向き、何う場所に合わせて歌や踊り、朗読劇

現する場でありたいとも思っています。また、団員以外に「団友さんと呼んでいる公演や裏方の仕事、活動を手伝ってくれる協力者の方々がいます。団友さんの協力に感謝しながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

——活動のなかで意識していることはありますか

長谷川：私たちの活動は、「楽しみながら芸術文化の向上をはかる」という理念のもとに行っています。多くの人と交流をはかり、もっと鈴鹿を知ってもらい、興味を持ってもらえたら嬉しいです。演

演劇を交えた体操などを年10〜20回ほど行っています。社協さんのボランティア活動としては「赤い羽根共同募金」や「ふれあいまつり」のお手伝いなどへ参加しています。令和4年からは、三重県SDGs推進パートナーとしての取り組みに沿って、演劇やワークショップなどを通じた17項目の達成にチャレンジしながら活動の幅を広げています。また、鈴鹿亀山消費生活センターと連携し、演劇を通じた特殊詐欺啓発のための巡回公演も定期的に行っています。



創立メンバー
長谷川 廣(ひろし)さん



創立メンバー
藪部 きよえさん

劇を通じて色々な考えを持つ人がいることを知ってもらい、相手を思いやる気持ちを持つこと。それが「犯罪の少ないまちづくり」に繋がると考えて活動しています。

また、私たちは仕事で培ったスキルやノウハウを活かして社会貢献する活動。プロボノを2年前から取り入れています。私を含め2名が看護師なので、認知症や精神障害疾患を持つ方への対応や傾聴などの団内講座を開き、公演に役立てています。ほかにも着付けやハンドベル講座など、活動に必要な教養講座を開き、常に向上心を持ち、楽しみにしながら活動することを心がけています。

——皆さんが団結し、目的をもって活きたと印象的でした。ありがとうございます。

インタビュー：大島千佳

※印の写真は取材先から提供していただきました